

【美術学部絵画科油画専攻／第一次・第二次実技試験 出題意図】

出題文は、一次、二次実技試験ともに同一の内容を課した。急速にグローバル化する現代社会において「世界」と対峙する上で「自己」と「芸術」という存在をどのように捉えているのか。その思考力、観察力、表現力を重視し、面接試験を含めた総合的な評価により芸術家としての可能性を見出す試験とした。

第一次実技試験においては、試験用紙を木炭紙倍版サイズとすることで、画面を観る視野を広げ、身体性を伴う表現の契機を高めることを指向した。二次試験の30号キャンバスに近いサイズとすることで、提出作品に共通の課題意識、評価軸を設定しつつ、潜在的な資質と独創性を問うことに主眼をおいた。

第二次実技試験においては、実技試験の空間そのものから表現動機を知覚しやすくするために、試験室全体を光と色彩を反射、または透過しやすい素材で区切った。空間を構成する全てのエレメントをいかに表現に組み込んでいるのか、その構想力、構成力を問う内容とした。